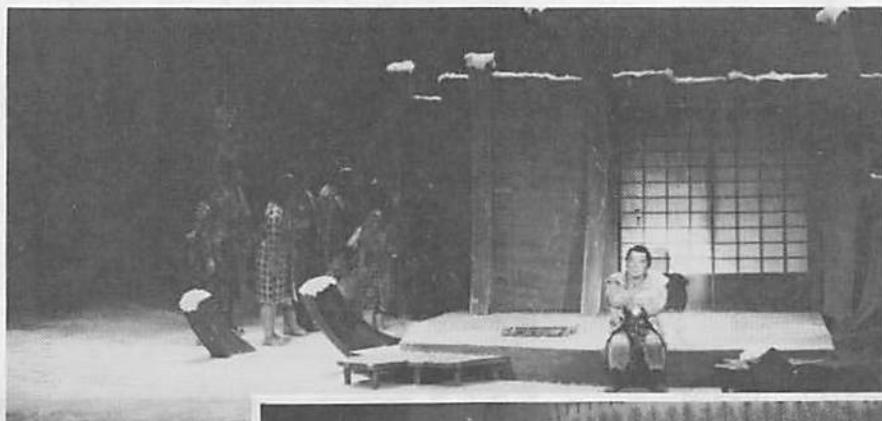


# 同窓会報

NO. 28  
1981. 11

発行——山形県米沢市門東町1丁目1の72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091

## 創立80周年記念特集号



同窓会主催記念音楽会

歌劇「夕鶴」

学園近況

樹齢を重ねた古い大木にも、次々と新しい枝葉をつけて益々貴重な記録を示しているものがあります。あわただしかった八十周年記念行事を成功裡に終えたいま、静けさを取り戻した学園の中で私は、そんな優雅な古い樹木を連想しています。これから学校建築を先どりしたような立派な教育センターが、文字通り九里学園の中心部に新鮮な香りを漂わせています。生徒も早速、新しい役員を選出して八十周年以後の校風づくりに精を出しています。先般の地区新人大会では、ほとんどクラブが県大会の出場権を獲得してきました。運動クラブだけではありません。演劇部も合唱クラブも県大会を前に一生懸命です。書道クラブはすでに県下で唯一人という最優秀賞をいただいてきました。

私は数年ぶりで、二年生の関西旅行に同行して昨日帰つてきました。旅先で、いろんな学校の生徒を見てきましたが、その服装や態度を見て、やっぱり本校の生徒は天下一品であることをつくづく感じてきました。上野駅で最後に降りた私は、車内掃除をするために入つて来た係の人から、紙屑一つ落ちていない車内に戸惑いながら、どこの学校ですかと尋ねられました。旅館に入いるや否や、タバコやビールの自動販売機をどうするか、などとこまごま注意や注文をつけた支配人が、翌日わざわざ私のところに来て「昨日は大変失礼なことを申しました。今どき、こんなに立派な修学旅行の団体さんは居ませんので、つい……」と詫びるのでした。世の中がどんなに変わっても、先輩たちの残した良い伝統を後輩たちが立派に引き継いでいる一例をご報告しております。

同窓会の総会や音楽会で、たくさんの方々とお逢いできてうれしく思いました。私がこの学校に来られた頃の生徒さんは、今ちょうど中学生や高校生を持つ親になっています。娘をこの学校に入れほんとに良かったといったつて、中学生を持つ旧友に胸を張つて、「なんとも娘をここに入れこんだ」といつて会話を聞きながら、「そうだ!君たちの娘のためにも俺は頑張るぞ!」と心の中で誓いました。

(加藤和夫記)



# 母校創立80周年を祝して

同窓会長 竹田力ツ

今年は母校も八十周年、誠に意義深くお目出たい申し上げたいと思います。

九月十三日八十周年の記念式典が行われ、多くの同窓会の方々にも御参加いただきました。誠に感激の一日本ございました。

校長先生の式辞をお聞きして、胸が一ぱいになりました。改めて創設者九里とみ先生を偲び、私達の到底はかり知れない御苦労であつたと、その偉大さに感銘を致し、厳肅さのある中で、深き、折目正しい御姿を昨日の如く思い浮べたのは、私一人ではなかつたと思います。

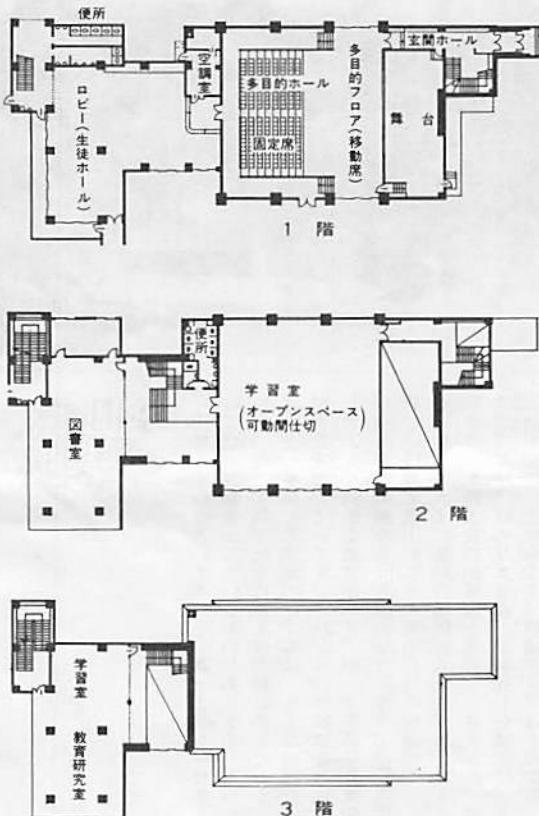
創立者の御意志を受け継がれた歴代の校長先生の御苦労、それを支えて来られた諸先生方、更には時代時代の生徒の皆さん、常に伝統を守りより美しい校風を守り育て、現在の輝かしい発展をなされた事に対して、多くの方々に心から敬意と感謝を申し上げた次第でございます。

又、校長先生の直筆で、九里学園の教育の基本である「礼と譲」の二字が書かれた、色紙が全校生徒に代表者を通して渡されました、何日も何日も書かれたと思います。すばらしい事です。

生徒の一人一人この日の感激が、やがて如何なる苦境にも耐えて、大きく強くはばたくであろうと思う時、何とも言えぬ嬉しさで目頭が熱くなるのをおぼえました。今更ながら校長先生の笑顔の中の強さ、偉大な力、心のふれあう暖かさに感動致し、参加者一同九里学園の限り無い発展を、心から祈念した次第でした。

夜は例年の通り、同窓会の大きな事業である音楽会が開催されました。今年は八十周年の意義深い年なので、特に母校からの御心配をいただき「夕鶴」でした。地方ではめったに御目にかかるないすばらしいものでした。役員の皆様には大変御苦労をおかけ致しましたが、ほんとうに有難うございました。十二日は新装なった教育センターを会場にして、

九里学園教育センター平面図



同窓会の総会を開催致しました。遠くは東京の方々を始め、県内各地から御出席いただき、卒業後の歳月がなかつたかの様に賑かに話もはずみ、久方振りで母校を訪ね、色々と見たり聞いたり、すばらしい発展振りに目を見はるばかりでした。



無事終了致しました。その中でかねてお話し申し上げおりました、八十周年記念事業である、九里学園教育センター建設のために、同窓会としても未だにはばたく学園のために、力を結集してお手伝いしようと皆様にお願い申し上げております。しかし、多くの方々から御協力いただきまして、九月三十日現在三、二六名の方々の、暖かい御心をよせていただき誠に有難うございました。実行委員の方の御努力に感謝申し上げる次第ですが、当初の目標に未だ達成出来ていませんので、八月末日の〆切日を、総会の協議の結果十二月末日まで延期をして、目標達成を目指して頑張ろうと言ふ事になりましたのでよろしくお願ひ致します。忘れておいでの方、お願いの届いていない方と色々事情がおありだと思いますが、八十周年を迎えた母校が、教育センターを中心として、二十一世紀に向かつて一層発展致します事を願つて、何卒よろしくお願ひ申し上げる次第です。

今年は寒さも早いとか、健康に十分御気をつけ下さいまして、それぞれの立場で御精進なされまます様祈念致します。

お目にかかる日を楽しみに。



何年も前から頭にこびりついていた八十周年の記念事業が終わって、正直どかりした気持の今日此の頃です。それにしても同窓会の皆様には大変な御苦労をおかけ致しました。多額の御寄附をお願いしましたが、それを無理ともおっしゃらずに、目標額達成の為に御奔走下さっている幹部の方々には、全く頭の下がるおもいです。その方々にとつては、まだ八十周年は終わっていないという御気持もあられるようで、大変済まなく思っています。

同窓生が毎日の激しい御仕事の中で、自らの労作を御寄せ下さった同窓生作品展は、何といつても展示の中の圧巻でした。心豊かな心情がしおれる作品ばかりで、後輩にも大きな刺激となつたのではないかと思います。

同窓会総会や記念式典もなつかしい方々の御参會で、とても嬉しく存じましたが、忙しく、ゆつてはないかと思います。

では、まだ八十周年は終わっていないという御気持もあられるようで、大変済まなく思っています。

同窓生が毎日の激しい御仕事の中で、自らの労作を御寄せ下さった同窓生作品展は、何といつても展示の中の圧巻でした。心豊かな心情がしおれる作品ばかりで、後輩にも大きな刺激となつたのではないかと思います。

同窓会総会や記念式典もなつかしい方々の御参會で、とても嬉しく存じましたが、忙しく、ゆつてはないかと思います。

## 創立八十周年

### 記念事業を終えて

校長 九里茂三

くり御話のできなかつた事が心残りです。又残念に思つたのは、遠来の同窓生の割に、地元の方々が少なかつた事です。「ふるさと」の感概はやはり遠きにありて思うもの」なのでしょうか。それでも校外の各所でずいぶん同期会が催されたようでした。

「私学」は、何といっても同じ釜の飯をたべた因縁を強く意識する心の絆によつて結ばれた集団で、いわば「一家意識」が支えるものだと思われます。最近の生徒達が、「米沢女子高」という抽象的な名称にあきたらず、色々な場面で「くのり」という名を冠するのは、伝統に結ばれたい意識のあらわれでもあり、又「私学」としての「九里一家」の一員である事に誇りを感じてゐる事の証でもあると思って、ほほえましく存じます。

得る学園づくりであつたという事ができます。私は私学人として、近頃とみに「私学こそ本物の教育の発祥地」という誇りを深めています。その実感を、形の上でも、中味の上でも実証する事が私の課題なのです。建物は形であるかも知れませんが、「九里学園教育センター」は、一つにはそうした誇りの象徴として、生徒や同窓生、教職員に対する精神をこめた贈り物だと思っています。

近頃、私は外部のお客様から、生徒の娘の良さをほめ讃える言葉を聞く事が多くなりました。娘々として校舎を磨き上げる勤労の態度、明るく素直な礼儀正しさ、靴やスリッパをきちんとそろえて脱いである風景、クラブや自主活動に立ちむかう積極的な態度、どこへ出ても堂々とやつての挨拶の立派さ等、他校の生徒に比べて、それこそ「違いのわかる」姿勢が、自堕落な若者達の



## ワイフを語る

赤いバイクのおかあちゃん

沼 部 貞 治

(妻)沼部令子

昭和四十六年卒業  
旧姓 吉益

風潮の中で一段際立つてゐるというのです。勿論すべて満点などとは申しませんが、九里学園が八十年にわたつて積み上げて来たこの実績を、私は八十周年のこよない宝として天下に誇ります。

同窓生の皆様には、八十周年によせられた御厚情に深く感謝申し上げると共に、どうぞあなたかく、そしてきびしく、今後の母校をはげまして下さるようお願いして、御挨拶と致します。

「私学」は、何といっても同じ釜の飯をたべた因縁を強く意識する心の絆によつて結ばれた集団で、いわば「一家意識」が支えるものだと思われます。最近の生徒達が、「米沢女子高」としての「九里一家」の一員である事に誇りを感じてゐる事の証でもあると思って、ほほえましく存じます。

「私学」は、何といっても同じ釜の飯をたべた因縁を強く意識する心の絆によつて結ばれた集団で、いわば「一家意識」が支えるものだと思われます。最近の生徒達が、「米沢女子高」としての「九里一家」の一員である事に誇りを感じてゐる事の証でもあると思って、ほほえましく存じます。

つい最近、二五五CCの赤バイクを手に入れた。今まで愛用していた車を売つぱらつて。バイクの季節はとうに過ぎたのに、寒さの中を完全装備で買物に出かける。町中で赤いバイクの彼女を見かけたら、それはきっとうちのおかあちゃんである。

# て同窓の絆をより固く

創立八十周年

## 記念事業報告

—総会— 田中とし子記

九月十二日（午後一時～五時）

母校が創立八十周年になりその発展の慶びに、遠くは北海道から関東一円に住む方々も、遙かぶりに母校に帰り、新装なつた教育センターホールに参集し和やかに開催された。

最初に、詩人、高田敏子氏の講演「生きる喜びを知る」という演題で情感あふれんばかりのお話に耳をかたむけ、女性ならではの細やかな生活の実感に共にうなずき、一生懸命生きているからこそ迷いもするとの一言に、何か忘れていたものを思いだしたよう勇気を得た心地がした。終わって会議に移り、三十六年卒の館野福子さんの司会で次のように進行。

### 協議事項

#### 五十六年度事業経過報告

母校八十周年記念事業協賛の寄附募金状況について

#### 募金目標二千五百万円に対する応募金額一千百三十万八千円（八月三十一日現在）

母校への寄附額、二千万円には余りにも不足すが基盤金から立て替え、本日一千五百万円を九里校長先生に差し上げた。この寄附の不足分、基本金のとりくすし分をどう補うかについて意見があり、結論として募金を打ち切らず、十二月末まで延期して目標達成に努力することに衆議一決。頼する。

同窓会運営の資金面について、五年前から卒業生数が少なくなり、当然として入会金や終身会費等の収入が減り運営面への影響が大きい。特に印刷費、郵送料等の値上がりで同窓会報の発行部数やその発送も思うにまかせず残念である。

何とかして資金を得て会員の親睦交流、又研修等も深めたいがこれという名案もせず、ただ継続的な講習

会とか、母校学園祭の一般公開のとき、同窓生の作品などを持ちより品のバザーをしては等々……話題になつた。

終わつて生徒ホールでパーティが開かれた。久々にお逢いする奥山こう先生、須貝うめ先生、沖津さみ先生、朝岡先生、そして同級生、母校の先生方。ホールのまわりの沿革展も過ぎし日をなつかしく思い出させてくれ、話もはずみ和やいだ声がホールにみちでうれしい。これも又生きることの幸福と思う。母校のますますの発展を期待し万才三唱して五時閉会。

## —創立八十周年記念協賛会—

志田俊子記

昨年の五月二十四日、法人はじめ各団体の役員会を母体に、創立八十周年記念事業協賛会が結成されました。同窓会もその一員として、この趣旨に基づき第一回の実行委員会を開催しました。その場で卒業生として会員一人一人の力を結集して、微力ながらも九里学園教育センター建設資金調達に積極的に取り組もうということになりました。

募金目標額は、教育センター建設資金として二千万円、同窓会記念事業費として五百万円、合計二千五百万円と決まりました。

募金には一人、三千円以上の協力を願うとすることにし、クラス目標、学年目標も設定しました。その後、直ちに目標達成を目指して、実行委員の方々を中心募金活動にはいりました。その結果、八月三十一日現在で、一九〇〇人の方々から一千三百六十万八千円の協力をいただきました。しかしながら、目標額にはかなりの隔りがあり、一時基盤金から立て替え、一千五百万円として協賛会へ差し上げました。九月十二日の総会で、基本金の立て替え分及び募金の不足分を今後どのようにしたらいいか協議しましたが、その結果、期日を今年末日まで延期して募金活動を続けることになりました。

募金の実状は、目標額に対し約八百万円の不足（達成六〇%）であり、もう一段の努力を続けたいものと思いますので、各クラス、学年で、特にまだ御協力をいただいている方々にお声をかけて下さいますようお願い致します。

懐かしい思い出

五 島 訓 二 先生

思い出を書こうと思つても、なかなか浮かんで来ません。それは、今、この一瞬を大切に、毎日毎日を出発点と考え、精一杯生きているからと思つています。

わたくし自身の将来は、今、この瞬間、ここにある

この言葉は、貴方達と一緒に行った修学旅行の見学地であつた、京都大仙院の尾関宗園師の説教です。あれ以来、いつも私の人生調として、卒業生の結婚式のスピーチでも必ず話している言葉です。

私の高校、大学時代共に修学旅行はありませんでした。それ故、教職に就いての最初の修学旅行には、生徒よりも私の方が喜んで、肩に大きな力メラ、首には小さなカメラ、手には8ミリ撮影機を持ち、見学地は總てレンズだけを通して見て来た事を思い出します。

便秘で下剤を飲み過ぎ、下痢が止まらず、バスが揺れるたびに、腰を浮かした皆川さん、その後腸の調子は如何ですか。

土産物を買ひ過ぎて、帰路の車中で友人にバーゲンセールをやつたマルブンさん、商売はうまくいつていますか。

奈良の宿舎で便所の自動ドアに指をはさみ、真っ青な顔で医者に行つた、一番元気な和田の渡部さん、指は痛みませんか。

帰りの夜行列車で、足がむくんで履けなくなつた自分の靴を、誰かに取り替えられたとわめいた

榎澤さん、その後履き違えはありませんか。今の生徒の修学旅行はスマートです。どうぞ御安心下さい。手ノ子生れの私も、一日も早くスマートな振る舞いが出来るよう毎日頑張ります。





## 母校に想う

母校の先生方始め皆々さま

80周年記念祝賀の行事に、東京より参加させて戴きました本当に有難うございました。

学校中に漲って居りましたあのあふれるばかりの活気と、きりりと礼儀正しい動作でおりむかえされる生徒さん達、礼と譲りと守られた校風は、初代九里とみ先生より受けつがれた現校長先生の、たゆまぬ御努力のたまものでございましょう。

新しい建物にこめられた並々ならぬ心入れ、ユニークな緞帳のやさしいゆらめきには、上杉謙信公の胸着に着眼され、それからヒントを得られたという。そして生徒さん達が一生懸命縫い合わされたという心うれしいお話を。

記念式典は壯重で身が引きしました。校長先生のお話は、私学としての確固たる自信、そしてあり方、私達がふるさとをあとにどこにいても、大きな誇りとするところはここにあつたのだと、深い感動をおぼえました。

祝賀の宴の和やかな語らいも忘れかねる思い出でございます。

迷子になる程大きくなった母校

チリ一つない清淨な母校

情のこもった懐かしい母校

ふるさとを出て40数年経ちましたが、ふるさとを想うときは一気に九里の生徒であった頃の乙女にかえります。

母校の益々の御発展を祈ります。

心こめて祈ります。

昭和3年卒 西 村 操

# 母校に集い

## 同窓生作品展

大久保洋子記

同窓生作品展は、社会で活動している同窓生（主に作品をつくっておられる方）を紹介しようということで、はじめられました。

展示にあたっては、取材から文字、ディスプレイにいたるまで、在校生の手をかりることなく、協力下さった同窓生によつてなされました。その労がむくわれて、作品制作中の大きな写真とその方の紹介文が大変好評でした。卒業後、様々な困難とたたかしながらも職業として、あるいは趣味として、よりよい作品へおもむこうとする姿がそこにはあつたからと思われます。作品の中にその方の人生がダブつて見え、同窓生にとつても、在校生にとつても、励ましを受けたよう思います。

最後に、遠く、静岡、横浜、東京から心あたたまる参加がありましたことを、感謝をこめて報告いたします。

## 記念音楽会

齊藤妙子記

会員の皆様から券の販売等で御心配を頂きまして同窓会主催の記念音楽会は、九月十三日、盛大のもとに無事終了できましたことを御報告致します。これも日頃からの皆様の御協力の賜ものと心より感謝致しております。有難うございました。

今年度は創立八十周年ということもあり、今までの音楽会とは趣を異にしたオペラ「夕鶴」を企画致しました。木下順二氏が創作した民話劇を團伊玖磨氏が作曲したもので、群馬交響楽団の美しい演奏、キヤストの名演技と歌唱で、幻想の世界へ誘いこまれる程すばらしいものでした。

最近では、記念音楽会もすっかり定着し、音楽を愛する方が増え、待ちどおしくしておられる方もいると伺い嬉しく思っている次第です。今後共皆様の御協力を得まして一層努力してまいりたいと思います。

## 雑

小松とき子先生

時の流れは早いもの、わたしは人生の半数近く歳月をこの九里学園で過ごすとしています。その間大過なくすごすことができましたのも、慈愛あふれる校長先生はじめ諸先生方のご指導と、あたたかいご支援をしてくださいました同窓会員の皆様のおかげと深く感謝致しております。

過ぎてみれば短かい二十年間ではあります。が、就職、結婚、出産、育児、と目まぐるしく変わる生活のリズムに、悪戦苦闘の毎日を過ごして参りました。現在は子供も成長し、どうにか当時をふり返る心の余裕もわずかながらでてきたような気がします。仕事と家の両立をめざしてきましたが、何一つ満足できる仕事ができなかつた事を後悔しています。ただ常に肝に命じていたことは、家庭生活の余波を職場に持ち込むような甘さがあつてはならないということでした。二十余年の教師生活を通し深く考えさせられたことは、「人生をどう過ごすべきか」ということについて、女性には男性以上に多くの問題があるということです。

特に最近は、ライフサイクルの変化により子育て後の人生が長くなりました。それに家事の社会化、機械化が進み家事労働が軽減されると共に、家庭の中から創造性のある仕事、すなわちつくり出す楽しみの多くが女性から奪われてしまいまし。そこで、家庭では埋め切れないので空き時間を作り過ごしている中年女性も多いようです。一体自分の目ざすものは何か、という真摯な問題を持つている人も多くいますが、何もつかむことができず戸惑いを感じている人も少なくないようです。六十の手習いもいいですが、もつと若いうちに老後の生活（生きがい）を計画していかなければなりません。すなわち人生の設計図はすでに若い時代にひかれていなければ間に合わないということです。すでに中年にさしかかった自分をみつめ、若い生徒達とこんな話をしている今日この頃です。





昭和十三年卒

万代はる子

## クラス会によせて

今から十年前の母校創立七十周年以後、二年毎にクラス会を開いております。地区毎に当番を決め、例えば米沢地区、山形、上山地区、南陽地区、西置賜郡地区等に分けて順調に回転しています。他県におられる方は支障のない限り必ず地元に帰り再会を約束しております。

今年は運よく米沢地区が当番でしたので、八周年の行事に合わせて九月十一日、白布東屋旅館が会場となりました。東屋はかつて、辛くて楽しかった吾妻登山の第一日目の宿舎でした。学校に早朝集合し、歩いて歩いて一日がかり、汗とほこりでようやく辿り着いた思い出の地です。

## 九里学園同窓会 昭和56年度予算

### ◎収入の部

項目	56年度予算額
繰越金	96,672
入会金	360,000
終身会費	1,080,000
収入	30,000
仮受金	1,240,000
基本金より繰入	750,000
合計	3,556,672

### ◎支出の部

項目	56年度予算額
運営費	( 751,672 )
事務費	50,000
通信費	100,000
会議費	100,000
慶弔費	50,000
人件費	360,000
雑費	91,672
事業費	( 1,565,000 )
音楽会	0
会員証	15,000
校歌保存	100,000
会報	500,000
記念行事	950,000
基本金	0
繰越金(仮受金)	
合計	

## 川村由美さんを讃える

昭和四十七年度卒業の川村由美さんが、この度母校創立八十周年の記念に、吹奏楽クラブの後輩たちに高価なマーチングドラム一式を寄贈されました。

川村さんは在学中吹奏楽クラブで活躍され、卒業後東京の楽器店に就職されました。

これまでも時折、コンクールや学園祭が近づくと、わざわざ仕事をやりくりして母校へ帰り、後輩たちの指導をやりながら不調な楽器を修理して下さっています。その折、高価な楽器や楽譜を寄贈されるなど、

大変な援助をいただいて、後輩たちに感謝されています。会報を通じて、川村さんの美挙をお知らせいたします。

## 是非、寄稿ください。

会報編集委員会では次回から「郷土料理」「我家の味自慢」の掲載を計画しております。

故郷を遠くはなれて生活している方々にとっては、ふるさとの味は忘れられない懐かしいもののようです。そのような方に料理法、コツをお伝えしたいと思います。

どうぞ、お気軽に事務局まで原稿をお寄せください。お待ち致しております。

## 創立八十周年 記念誌発刊

### 一 生徒活動にみる八十年 一

(内容)

○論文(九里茂三)

○八十年のあゆみ

○自主研究

記念誌代 一、五〇〇円

郵送費 五〇〇円

記念誌ご希望の方は、米沢女子高内同窓会事務局までお申し込み下さい。

塙川よしあ

大正十年卒業

林くに子

昭和十六年卒業

高橋和美

昭和四十六年卒業

同窓生一同

謹んで皆様の御冥福をお祈り致します。

近野いちの

大正四年卒業

## 編集後記

冬が駆け足でやってまいりましたが、皆様にはお元気でお過ごしの事と思います。

お蔭をもちまして、創立八十周年の諸行事もすべて大成功に終わり、同窓会として、明日への一步を確認し合つた有意義な年でした。

この機会に、会報編集についても考えて

みる必要があるようです。単なる報告ではなく、会員一人一人の声が直接反映される

ようなら、前向きの会報作りに取り組んでい

こうと思います。何卒、温かい協力を宜しくお願い致します。又、ご意見、ご希望がございましたら、遠慮なく事務局までお寄せください。

冬支度でお忙しい時、お体には十分気をつけて下さいませ。

翌十二日は同窓会、大半は何十年ぶりの母校訪問。その発展ぶりには驚嘆と感激で一杯でした。特に八十年間の九里ゆかりの方々の総結集で、見事に完成了教育センターこそ、正に教育の殿堂であり、とみ先生への何よりの手向けと存じまし